

会 議 録 目 次

平成 1 6 年 第 6 回 海 田 町 議 会 臨 時 会 （ 第 1 日 ）

平成 1 6 年 1 0 月 2 9 日 （ 金 ） 午 前 9 時 0 0 分 開 会

日 程 第 1	会 議 録 署 名 議 員 の 指 名 に つ い て	3
日 程 第 2	会 期 の 決 定 に つ い て	3
日 程 第 3	認 定 第 2 号 平 成 15 年 度 決 算 の 認 定 に つ い て	4
	（ 閉 会 ）	1 4

会 議 録

- ~~~~~○~~~~~

15番 住 吉 充
17番 中 岡 長 一
19番 加 藤 公

16番 佐 中 十九昭
18番 国 岡 光 明
20番 前 田 勝 男

~~~~~○~~~~~

7. 欠 席 議 員

な し

~~~~~○~~~~~

8. 説明のため議場に出席した者の職氏名

| | |
|----------------------------------|-----------|
| 町 長 | 山 岡 寛 次 |
| 企 画 部 長 | 池 乃 本 和 弘 |
| 総 務 部 長 | 山 本 義 彦 |
| 福 祉 保 健 部 長 | 上 條 正 弘 |
| 参 事 | 富 田 征 |
| 企 画 課 長 | 大 久 保 裕 通 |
| 財 政 課 長 | 内 田 和 彦 |
| 総 務 課 長 | 窪 地 満 |
| 地 域 振 興 課 長 | 臼 井 真 |
| 税 務 課 長 | 永 海 房 雄 |
| 住 民 課 長 | 貝 原 陽 子 |
| 福 祉 課 長 | 植 野 敏 彦 |
| 高 齢 福 祉 課 長 | 上 村 直 樹 |
| 保 健 セ ン タ ー 所 長 | 西 本 徹 郎 |
| 監 理 課 長 | 久 保 伸 一 |
| 建 設 部 次 長 | 児 玉 正 克 |
| 都 市 整 備 課 長 | 畠 山 隆 |
| 海 田 市 駅 周 辺
ま ち づ く り 事 務 所 長 | 青 木 基 秀 |
| 教 育 課 長 | 正 木 洋 |
| 教 育 部 長 | 中 野 潔 |
| 学 校 教 育 課 長 | 楨 根 君 夫 |
| 生 涯 学 習 課 長 | 佐 々 木 正 子 |

~~~~~○~~~~~

~~~~~○~~~~~

~~~~~○~~~~~

~~~~~○~~~~~

~~~~~○~~~~~

午前9時02分 再開

この際、執行部の方に申し上げます。本臨時会の会期は、本日 1 日と決しております。

町長より提案理由の説明を求めます。町長。

どうぞよろしく願いたします。

老人保健特別会計につきましては、歳入総額21億6,608万6,000円、歳出総額21億5,237

万9,000円で、実質収支は1,370万7,000円の黒字となりました。

介護保険特別会計につきましては、歳入総額10億2,772万7,000円、歳出総額10億1,394万6,000円で、実質収支は1,378万1,000円の黒字となりました。

以上、平成15年度の各会計の決算収支の概要をご報告いたしましたが、決算の内容につきましては、担当者に説明させるとともに、決算書及び主要施策の成果に関する説明書を提出しておりますので、ご審議いただき、ご認定いただきますようお願いいたします。

○議長（前田）財政課長。

○財政課長（内田）それでは、決算の内容につきまして、平成15年度主要施策の成果に関する説明書によりましてご説明を一般会計からさせていただきます。

まず、3ページの方をお願いいたします。3ページの第2表の一般会計歳入決算額対前年度比較でありますけれども、歳入総額は99億4,680万2,000円で、前年度と比較しまして11億4,573万7,000円、13.0%の増額となっております。主な内容につきましては、町税が41億2,408万5,000円、前年度と比較しまして△4,653万4,000円、1.1%の減少であります。地方交付税につきましても、5億8,837万8,000円で、対前年比1億9,343万8,000円、24.7%の減少でございます。国庫支出金につきましても、4億8,139万9,000円で、対前年比5,641万3,000円、10.5%の減少でございます。県支出金につきましては、5億30万円で、対前年比8,625万9,000円、20.8%の増加でございます。繰入金につきましても、7億5,775万円で、対前年比3億5,275万、87.1%の増加でございます。町債につきましても、22億9,320万円で、対前年比10億7,400万円、88.1%の増加でございます。

次に、歳出についてご説明いたします。14ページをお願いいたします。第9表の一般会計歳出目的別決算比較でご説明いたします。目的別の歳出につきましては、歳出総額は97億3,193万8,000円で、前年度と比較しますと10億8,115万4,000円、12.5%の増加でございます。主な内容につきましては、総務費が11億310万9,000円で、前年度と比較しまして9,896万9,000円、9.9%の増加でございます。民生費につきましても、22億8,763万7,000円、対前年比5億3,299万円、30.4%の増加でございます。土木費につきましても、26億8,310万3,000円で、対前年比1億4,153万1,000円、5.6%の増加でございます。教育費につきましても、13億2,817万3,000円で、対前年比3億3,202万6,000円、33.3%の増加でございます。次に、20ページをお願いいたします。20ページの第11表、一般会計歳出性質別決算額でご説明いたします。歳出の性質別でありますけれども、人件費、

扶助費、公債費から成る義務的経費は33億2,506万2,000円で、前年度と比較しまして△2,848万4,000円、0.8%の減少となっております。投資的経費につきましては、32億5,898万8,000円で、対前年比10億2,246万2,000円、45.7%の増加でございます。その他の経費につきましても、31億4,788万8,000円で、対前年比8,717万6,000円、2.8%の増加となっております。

次に、公共下水道特別会計決算についてご説明をいたします。101ページをお願いいたします。101ページでありますけれども、歳入総額は19億6,046万円で、主な内容につきましては、使用料及び手数料が3億1,085万8,000円、国庫支出金3億3,000万円、繰入金3億6,761万7,000円、町債7億5,370万円となっております。次に、102ページをお願いいたします。歳出につきましては、総額が18億9,357万2,000円で、主な内容につきましては、事業費が11億2,563万1,000円、公債費5億9,655万9,000円となっております。104ページをお願いいたします。15年度に污水管3,951.8メートルを布設した結果、海田町の下水道は337.4ヘクタールが整備されまして、9,283世帯が処理可能となり、下水道普及率は76.5%となっております。

次に、国民健康保険特別会計決算についてご説明いたします。107ページの方をお願いいたします。15年度の収支状況でありますけれども、収入は24億3,141万7,000円で、主な内容につきましては、保険税が6億8,800万5,000円、国庫支出金7億6,526万8,000円、療養給付費等交付金6億3,550万5,000円となっております。支出につきましては23億2,214万5,000円で、主な内容につきましては、保険給付費が15億3,295万9,000円、老人保健拠出金が6億3,737万3,000円となっております。

次に、老人保健特別会計決算についてご説明いたします。113ページをお願いいたします。収入は21億6,608万6,000円で、主な内容につきましては、支払基金交付金が14億7,227万2,000円、国庫支出金4億6,820万5,000円となっております。支出は21億5,237万9,000円で、医療諸費が21億5,209万9,000円と、全体の99.9%を占めております。

次に、介護保険特別会計決算についてご説明いたします。116ページをお願いいたします。歳入総額は10億2,772万7,000円で、主な内容につきましては、保険料が1億9,891万5,000円、支払基金交付金が3億2,145万9,000円、国庫支出金2億5,040万3,000円、県支出金1億2,194万9,000円、繰入金1億3,491万9,000円となっております。117ページの歳出につきましては、総額が10億1,394万6,000円で、保険給付費が9億7,753万4,000円と、全体の96.4%を占めている状況でございます。

以上、簡単ではありますが、平成15年度の各会計の決算についての説明を終わらせていただきます。

○議長（前田）以上で説明を終わります。平成15年度決算については、去る9月13日から16日にかけて監査委員が決算審査を行っております。これより質疑を行います。決算の認定につきましては、既に設置されています決算審査特別委員会において慎重審議していただく予定でございますので、質疑は大綱にとどめ、詳細については委員会の場をお願いをしたいと思います。それでは、質疑を行います。質疑があれば許します。質疑はありませんか。崎本君。

○13番（崎本）私は、これに目を通して1点だけ不審に思うのを、決算特別委員会でやってもらえばいいんですが、この意見書の中でも毎年不用額というものが出てくるんですよ。このたびは不用額というのを上げておられませんが、この中を見たら、いろいろな15年度の予算・決算書の中を見たら、前年度より不用額がちょっと多いかなというような、それはいろいろ事情があつて、私も事情は大体わかっちゃうつもりですが、この意見書の中でも今のどういうふうにされたかというのはわかりませんが、不用額ということに対してはこのたびは全然載っていないが、そこらの、執行部に対して、不用額をどのように思っておられるか、その1点だけお願いします。

○議長（前田）財政課長。

○財政課長（内田）不用額につきましてはこれまでも各担当課の方に、50万以上の不用額等が出た場合については補正予算で対応していきたいということで指示をしておりますけれども、補正予算後におきましても、制度の変更とか、あるいは3月議会に間に合わなかった状況等を踏まえて、結果的に不用額が50万以上出たものもございます。できるだけ、50万以上については減額をさせていただいて不用額を減らすような努力はしているところでございます。

○議長（前田）ほかに。佐中君。

○16番（佐中）当初予算のときに、私の記憶では107億か108億組んだと思うんです。これは合併の建設の予定があつて、駆け込みの予算というように言いましたけれども、実際こうして決算で見ると、99億ということになっているんですが、そうした、当初の計画の中で執行できなかった、あるいは節約をしたからこういう結果になったんだという結果も得られるわけですが、しかし、当初の計画の中で実質、町民サービスがそれだけ行き届かなかったということも考えられるわけで、その主な内容、補正で何回か

やられた、あるいは町税が収入がなかった、交付税が減らされたというのも数字の中にあらわれておるんですが、主には何なのか、お尋ねいたします。

○議長（前田）財政課長。

○財政課長（内田）これまでも補正予算におきまして、大きくは3月補正、12月補正で減額させていただいておりますけれども、いわゆる工事費関係の執行残等々が大きな要因を占めている状況でございます。

○議長（前田）佐中君。

○16番（佐中）工事費関係というと、私は建設の中でいろいろ審議もし、あるいはそれなりにしたわけですが、ちょっと私の記憶にないんですが、具体的には、じゃ、どういう中身が問題なのか、お尋ねします。

○議長（前田）財政課長。

○財政課長（内田）先ほど申しましたとおり、工事費関係の執行残が主なものでございまして、主には総合公園の関係の入札執行残とか、あるいは小学校・中学校関係の執行残、あるいは街路事業費関係の負担金の減額関係等々をもろもろ踏まえた結果でございます。

○議長（前田）佐中君。

○16番（佐中）これは、それはそれでいいと思う。だけれども、そうすると、107億でしたかね、予算を組んでおったのが、実際7億、8億も節約でというのが考えられんわけですが、そこら辺がちょっと私は納得いかないの、答弁できなかつたら、委員会でやってもらえばいいんですが、どうでしょう。

○議長（前田）財政課長。

○財政課長（内田）工事費関係と申しまして、先ほど申しましたけれども、その他大きなものでは福祉センターの建設事業費関係がやっぱり大きな要因になっております。これが、用地関係と工事関係は当初16億ぐらい予定をしておりましたけれども、実際にはこれが大きな要因を含んでおります。

○議長（前田）ほかに質疑はございませんか。桑原君。

○7番（桑原）次の決算委員会に出席できませんので、4点ばかり質問していいでしょうか。具体的なことじゃなくて基本的なことなんですけれども。じゃ、4点ばかりお願いします。

まず第1点、町債の関係でございます。意見書の7ページ、8ページに出ていますけれども、成果に関する説明書でもあっちこっちに出ています。町債は予算編成上、大変

影響が大きいものでございます。例えば今回の決算で、15年度は22億9,320万、予算に対して23.1%、14年度が11億7,920万で13.4ということで、10%アップしています。金額的には約倍増ですね。13年度から見れば3倍になっています。それから、このことが自主・依存財源に反映されて、14年度は自主が50.5だったのが、16年度は54.9、反対に、依存が40.5だったのが、15年度は45.1と、差が20%から10%に下がっていますね。そういうようなこと。それから、8ページにやっぱり出ていますけれども、自主財源の増減額、計が11億4,500万になっていますよね、15と14の対比が。それはちょうどおおむね、3,000万違いますけれども、町債の発行額そのものなんです。これを見ても、いかに、予算で苦勞されたといえは苦勞なさったんでしょうけれども。おまけに、16年度予算では編成上24億2,600万、予算上29.9、これは30%ですよ。こういう状況を踏まえて、17年度の健全予算編成上といいますか、これから単独町政をやる上において町債の発行額は最重要課題だと私は思っているわけですが、今申し述べたいろんな諸事情、背景を踏まえて町長はどのようにお考えなのか。17年度のね。これは大変難しいと思います。この場で答えられなくても結構でございますけれども、そういう問題意識を持っておられるか、そういう所見をお願いしたいと思います。

2つ目、これは監査意見書の10ページの方に主要財務比率が出ております。その中の財政力指数についてお尋ねします。これは基準財政需要額分の基準財政収入額でもって計算して、当該年度以前3年の平均値をとっていると書いています。これを割り戻しますと、大体単純平均で、15年度は単年度では大幅に改善されて0.886になります。計算してもらえばわかりますね。単純に3で割り戻して、単純平均では。そうしますと、14年度に対して0.062、13年度に対しては0.07、大幅にアップされてくるわけですよ。公債額の拡大、自主財源の減少、今そういったような公債のことも申しましたけれども、余り好材料が見当たらないように私は考えるんですけど、この意見書等に見れば、好転したと言われておるわけです。余り好転していないように私は思うんですけど、その辺は何をもって好転傾向にあるというように考えられたのか、これは監査委員の方にお尋ねしてもいいと思うんですけども。どのように考えておられるか、何が好転材料なのかということ。

それから、3番目に税の収納状況について町税を中心にお尋ねしているわけですが、これも意見書の方がまとまって書いていますから、ページ12から13、14ページにまたがっていろいろ書かれております。収入済額が減少した、不納欠損額は増加した、

収入未済額は減少したと。全体でも税の収納状況が書かれています。それで、町税を中心に、これは町税と全く同じような傾向でございますので、分析をしてみますと、これは全部、今申し上げた収納状況とか不納欠損、収入未済なんか皆すべて固定資産税の増減が関与しているわけですよ。すべて固定資産税が増えたからだとか減ったからこうなったんだという、主要因は皆すべて固定資産税にありというように書いておられるわけね。それはわかるんですよ。それは構成比が約60%を占めているわけですからね、固定資産税の関係は。そのために、この構成比が大であるから影響度も大きいんだというだけなのかどうか。固定資産税がすべてにかかっている、何か固定資産税について関係があるのか。特別な関係がなければ、ただ構成比が60%を占めれば、それが変動すれば大きく変動するというのは理論的にはわかるんですけども、それ以外に何かあるのかどうかということ。私は、ただこの収納額が減少したとか何とか、喜ばしい現象だというように書かれているんですけども、これは単に、収納率が上がる原因というのは、調定額の変動の方が、分子の収入済額の変化よりも分母の方が大きかったから全体が小さくなったという、それだけのことだと私は思っているわけですけども、固定資産税に主要因を掲げておられますから、それが何かあったのかどうかということをお尋ねします。

それから、4つ目に、今、崎本議員、佐中議員もおっしゃっていたんですけど、私は補正予算、これは6億700万減額補正しているんですよ。これは今まで余りないことなんです。過去を見ますと、平成12年に1億7,600万やっています、減額を。それからずっとやっていません。これだけですね。あと、8年に2億2,100万。あとはないんですけども、6億700万減額補正しています。それに不用額が2億5,850万。合わせたら8億6,600万ですよ。これはどうですか。予算現額100億3,400万の9%、10%、約1割に当たりますよ。これは予算執行の点において、余り、町長がおっしゃっておるような効率的な予算にはとてもほど遠いんじゃないかと。17年度予算にはこれは十分考えないといけないことじゃないかというように思うわけです。合わせて8億6,620万、これは記憶にとどめておいていただきたいと思います。昨年度、私は質問したんですけども、14年度についても補正予算が1億2,080万だったんですよ。それで、翌年度繰越額が全く同額なんです。1億2,080万なんです。翌年度へ繰り越すために補正予算を組んだのかと質問したんですよ。あまりにも偶然過ぎているから。こんなことは珍しいことなんです。そうしたら、今年はさらに補正予算に不用額で8億6,600万も減額しているということなんです。

よね。こんな財政難だ何だと言っているときに、1割に近い金を何のために議会を開いて補正予算を組んだのかと言いたいというわけです。

それからもう一つ、これは意見なんですけれども、今の4つの質問とは別なんですけれども、今、説明がありました主要施策の成果に関する説明書。これは決算委員会で昨年、その前のときの決算委員会でもずっと申し上げていることなんですけれども、成果の説明書じゃないんですよ、これ。ただ報告書なんです。実施報告書なんです。これは皆さんお読みになったらわかると思うんですけれども、実施しました、努めました、図りましたばかりなんです。予算を執行した結果どういう成果がありましたよと、そういう説明がほとんどございません。これは毎年言っていることなんです。ただ幾ら支出しました、何割になりますとか、そういうことばかりなんです。中には改善された点が全くないわけじゃありません。これでは成果の意味が全くないんですね。そういう意識が働かないから、こんな不用額とか減額補正したり、そんなようなこと、要するに適正な予算の執行がなされているかどうか疑わしいということを如実に物語っているものじゃないかと思うんです。これ、ご覧になってくださいよ、本当に。毎年同じスタイルですよ。去年のもおとしのもずっと見ていますよ、これ。ただ数字だけ変えているんですよ。変なことを言うようなんですけれども。成果なんですよ。成果の説明書なんです。これだけ実施したから、こういう結果になって町民に喜ばれたという、そういう成果のほどを示してほしいんです。毎年同じようなことを申し上げて恐縮なんですけど、どうして成果ということについてお考えにならないのかどうか。新町長は今度の決算が初めてですから、その点を十分お考えいただいて。私はうそを言っているわけじゃないと思うんですよ。これは意見ですから、皆様方をお願いしておきます。以上です。

○議長（前田）町長。

○町長（山岡）桑原議員のいろんな質問の中でございますが、多額な町債の発行ということにつきましては、合併ということに對しましていろいろと皆さんと一緒に協議をされて、そしてこういう予算を組ませていただいてこの形じゃないかと思いますが、単独町政ということが一応決まりましたので、我々としては、平成17年度予算編成に對しましてはある程度かなり大きく変化をした予算にして新しく皆さんに公表していきたい、こういうふうに考えております。また、私の方の報告でございしますが、決算の報告のことでございしますが、あくまでもこれは数字的な決算の報告でございしますので、改めてそういうふうな1つの参考にしながらまた今後のことを考えていきたい、こういうように

考えております。

○議長（前田）財政課長。

○財政課長（内田）２点目の財政力指数の関係でございますけれども、ご存じのとおり、財政力指数の関係につきましては、基準財政需要額、基準財政収入額等の比較でもって出てくるものでございますけれども、いわゆる15年度につきましては、基準財政収入額については、町税の落ち込みにより、減ってきたわけですが、それにも増して基準財政需要額におけるいわゆる臨時財政対策債、地方交付税の振替分が臨時財政対策債として振り替えられたんですけれども、それが需要額として減額されたということで、いわゆる財政力指数の指数自体が上がってきたということでございます。単年度で見ますと、15年度単年度は0.86でございます。14年度が0.831ということで、1つは、国としまして財政力指数を上げることによって交付税を削減していこうというような動きがあるのではなかろうかというふうに考えております。

それから、減額補正の大きなことでございますけれども、今年度6億余りの減額補正をさせていただいておりますけれども、先ほど申しましたいろんな工事関係の入札残等々で、当初予定しました予算額と同額での入札ということはまずあり得ません。いわゆる入札率との関係等がございまして、その結果、不用が生じたということで、その額が今年度は、15年度につきましては福祉センターという大きな事業を持っておりましたその関係で、その分の入札残、あるいは設計金額の変更等につきまして大きな減額となったものでございます。

○議長（前田）税務課長。

○税務課長（永海）町税に係ります今の決算審査意見書の主な原因が固定資産税で整理をされておるということでございますが、個々の要因とすればそれぞれ事細かくございすけれども、監査委員の方で、主な要因としてそれが固定資産税であるということで掲げられておると。個々でいけば、それぞれ要因はございます。

○議長（前田）桑原君。

○7番（桑原）十分検討しないと、ここでお答えいただくような問題じゃないと私は思っているわけです。ただ、固定資産のことについては特別な要因とか理由がないということなのでね。ただ、比率が60%に近い比率を占めているので、その上げ下げは大きく影響するんだよということなんですよね、今おっしゃっていることは。だから、今後とも予算に……。私は一般会計予算、この前の定例議会で、なぜこれを載せないのかと。一

般会計予算をですね。水道だけ載せて。という質問をしました。それは何か事情はいろいろあったようですが、そんなことはともかくとして、この重要な時期に決算を軽視しているんじゃないかというように思われるわけですよ。こういうときだからこそ、早く上程して17年度の単独町政の財政に反映させないことには、えらいことになるんじゃないかという意味で申し上げたんですけれども。早急に、いろいろと今後17年度予算を編成される上で、今申し上げたようなことをぜひ考えていただいて編成をしていただきたいと思います。また細かいことについては決算委員の方にあとはお願いするかもわかりませんが、よろしくお願いしたいと思います。

○議長（前田）ほかに質疑はございませんか。岡田君。

○4番（岡田）4番、岡田です。この意見書の2ページなんですけれども、2ページの2番目の国民健康保険特別会計のことなんですけれども、収入未済額と不納欠損額がともに増加をしておると。平成14年は大幅に増加しておると書いてあったんで、このたび「大幅」という言葉がなくて「増加している」だけで、欠損額、不納額とも減っておるんかと思ったんですけれども、31ページの方を見ますと、両方とも増えておると。収納率も前年に比べて下がっておると。なかなか国保料も上がったりなんかで大変だと思うんですけれども、年々この傾向はあると思うんですけれども、やはり払える国保料というんですか、国保税、そういうふうなことにしないといけないような気がするんですけれども、こういうふうなの収納対策ですね、払える税金というか保険税、こういうふうなことに對して今後どういうふうな施策をしていかれるのかをお伺いいたします。

○議長（前田）住民課長。

○住民課長（貝原）国民健康保険税のことについてですけど、あくまでも国民健康保険は、先ほどの決算の報告でもありましたように、保険給付費が主な支出になっておりますので、それがもとになって税率も決めておりますので、それを極端に下げるということは非常に難しいことです。収入の伸び悩み等のことで、非常に納税者にとっては負担になっているのも事実ですが、負担の公平性を図る上でも分割納付等、その方々の状況に応じて納付相談に応じ、現段階ではそういった形で分割納付という方も増えておりますので、収納率への影響もかなりあります。だから、単年度でそれを修復することは困難かと思いますが、地道に努力していきたいと考えております。

○議長（前田）ほかに質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（前田）質疑なしと認めます。以上で質疑を終結いたします。

この際、認定第２号、平成15年度決算の認定につきましては、議長より発議をいたしたいと思います。

本件につきましては、既に設置されています決算審査特別委員会に付託の上、閉会中といえども審議し得ることとしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（前田）異議なしと認めます。よって、本件は決算審査特別委員会に付託の上、審議することと決めます。

以上で、本臨時会に付議されました案件はすべて終了いたしましたので、会議を閉じます。

これにて平成16年第６回海田町議会臨時会を閉会いたします。ご苦労さんでございました。

午前９時４５分 閉会